

「環境モニタリングデータを活用した データ駆動型農業 導入の手引き」の概要

1 「導入の手引き」作成の目的

本県の園芸産地では、新規生産者の増加に伴い、栽培技術の早期習得や、産地の熟練技術の維持・継承が急務となっています。一方で、他県の産地では、栽培環境のモニタリングや環境制御技術の導入等に取り組み、収量が向上している事例が見られます。

そこで、県では令和3年度から令和5年度に、農林水産省の「データ駆動型農業の実践・展開支援事業」を活用し、村山地域と庄内地域のハウスきゅうり団地において栽培環境のモニタリングや、モニタリングデータに基づいた栽培管理の改善等に取り組んできました。

3年間の取組みの結果、実際に収量が向上した事例や、栽培経験年数の浅い生産者が、数年で地域の単収上位者となった事例等が見られました。

このような取組みを県内の他地域・他品目へと広げるため、環境モニタリングの導入・活用のポイントや、取組事例を取りまとめた「導入の手引き」を作成しました。

2 「導入の手引き」の活用方法

「導入の手引き」は、JAや各総合支庁農業技術普及課等の関係機関での活用を想定しています。また、県内の生産者を対象に、「導入の手引き」を活用した研修会を開催する予定です。

3 「導入の手引き」の構成

<目的>

- ・データに基づいた栽培管理の改善・最適化
- ・データや「気づき」の共有による産地全体のレベルアップ

<STEP01> 個人での取組み

- ・環境モニタリングの必要性
- ・環境モニタリング機器 使用のポイント
- ・環境モニタリングデータと管理改善の例
- ・環境改善に向けた技術の実証事例

<STEP02> 仲間との取組み

- ・データや「気づき」の共有の重要性とスタディークラブ
- ・スタディークラブの進め方
- ・データ共有による栽培管理の改善事例
- ・スタディークラブの取組事例